

正誤情報

このたびは森北出版株式会社発行の書籍をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。下記の書籍につきまして誤りのある箇所がございましたので、お詫びし訂正させていただきます。

2020年10月16日 森北出版株式会社 生産マネジメント部

タイトル

できる！電気回路演習

正誤対象

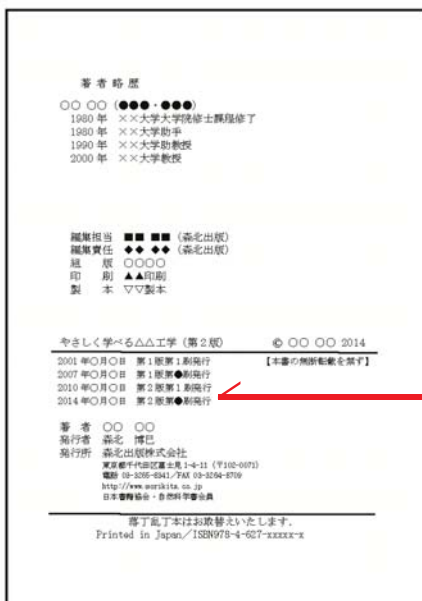
お手持ちの書籍の刷数をお調べのうえ、下の表をご覧ください。正誤表内の一番左に「対応刷数」という列がございます。該当する刷数の訂正情報をご参照下さい。

なお、刷数につきましては下記「刷数の調べ方」をご参照ください。

お持ちの本の刷数	
1, 2 刷	対応刷数 2 をご参照ください
それ以降	現在把握している訂正情報はございません

刷数の調べ方

本の一番後ろのページ(広告等除く)に下図のようなページがございます。ご参照いただき、お持ちの本の刷数をお調べください。



日付の最も新しい行に記載された数字がお持ちの本の刷数となります

対応 刷数	頁	行数, 図・ 表・式番号	誤	正
2	62	要点 5.1.6 1 行目	…電力 $i(t)$ と…	…電力 $p(t)$ と…
2	183	演習問題 3.1 (3)	(3) $i_2 = \frac{40}{10} = 4[\text{V}]$, …	(3) $i_2 = \frac{40}{10} = 4[\text{A}]$, …
2	189	1 行目	<u>以下では…計算する.</u>	<u>電気回路ではフェーザの大きさとして正弦波の実効値を用いて定義することが多いが, 振幅を選択することもできる. ただし, その結果は, 正弦波からフェーザに変換する場合とフェーザから正弦波に逆変換する場合とで合わせておく必要がある. 以下の問いでは, 振幅に選ぶとして計算する.</u>
2	189	(3)の図	$E_2 = 1\angle 90^\circ$ $E_1 = 1\angle 0^\circ$	$E_2 = \frac{1}{\sqrt{2}}\angle 90^\circ$ $E_1 = \frac{1}{\sqrt{2}}\angle 0^\circ$
2	189	(4)の図	$E_2 = 3\angle 90^\circ$ $E_1 = 4\angle 0^\circ$	$E_2 = \frac{3}{\sqrt{2}}\angle 90^\circ$ $E_1 = \frac{4}{\sqrt{2}}\angle 0^\circ$
2	189	(5)の図	$E_1 = 1\angle 30^\circ$ $E_2 = 1\angle -30^\circ$	$E_1 = \frac{1}{\sqrt{2}}\angle 30^\circ$ $E_2 = \frac{1}{\sqrt{2}}\angle -30^\circ$
2	189	(6)の図	$E_2 = 1\angle 120^\circ$ $E_1 = 1\angle 0^\circ$	$E_2 = \frac{1}{\sqrt{2}}\angle 120^\circ$ $E_1 = \frac{1}{\sqrt{2}}\angle 0^\circ$

2	189	(7)の図	$E_2 = 1 \angle 120^\circ$ $E_1 = 1 \angle 0^\circ$ $E_3 = 1 \angle 240^\circ$	$E_2 = \frac{1}{\sqrt{2}} \angle 120^\circ$ $E_1 = \frac{1}{\sqrt{2}} \angle 0^\circ$ $E_3 = \frac{1}{\sqrt{2}} \angle 240^\circ$
2	200	補充問題 3.1(1)	$i_1 + i_2 + i_3 = 0$	$-i_1 + i_2 + i_3 = 0$
2	201	補充問題 3.4(図 3.22) 下から 1 行目	$-3j_2 + 4j_3 = 18$	$-3j_2 + 4j_3 = -18$